

令和8年2月16日(月)  
令和7年度 東京都発達障害者支援地域協議会

令和7年度

# 東京都発達障害者支援センター(おとなTOSCA) 活動報告

## ③成人期発達障害者支援力向上研修



### ③-1.成人期発達障害者支援力向上研修※支援者の勤務地

2 【参考】Ⅰ:講演会、Ⅱ:パネルディスカッション、Ⅲ:困難事例検討会 ※事例検討会を区部・多摩地区に分けて開催

令和7年6月25日

東京都福祉局、東京都発達障害者支援センター おとなTOSCA主催  
令和7年度成人期発達障害者支援力向上研修 (専門人材育成研究会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)

東京都における発達障害者支援は、区市町村ごとに役割分担が図られています。  
発達障害者支援体制が整備された地域の一環として、区市町村における成人期の発達障害者の専門人材育成の  
拡充と困難事例への支援力の強化を目的に、医療、司法、福祉の専門家を講師に招き、「成人期発達障害者  
支援力向上研修」をオンライン・対面で開催いたします。

**受講対象者**  
■勤務地が東京都内にある方  
■所属する機関において成人期の発達障害者支援に従事する方  
■成人期の発達障害者支援において、何らかの困りごとを抱える方

各回定員 **30名**

**Ⅰ.基調講演 テーマ「成人期の発達特性を有する人たちの特徴」** 申込/切:7月8日(火)15:00  
Ⅱ.パネルディスカッション テーマ「発達特性を有する人への合理的配慮を考える」  
日 程:令和7年7月9日(水)13:00~16:30 **ハイブリッド型研修** 申込 QR  
場 所:豊田地区庁 豊田第一庁舎(伊原町)  
基調講演講師:加藤 道雄氏(おとなTOSCAセンター長、精神保健指定医、神経研究内理事兼)  
コーディネーター  
伊藤 克之氏(日野アビリティ法律事務所 弁護士) 申込 URL  
鈴木 慶太氏(株式会社Kollen 代表取締役)、加藤 道雄氏(前職) <https://forms.gle/jp35TAT1regMCTe4R>

**Ⅲ.困難事例検討会(23区・島しょ地域)** 申込/切:9月9日(火)15:00  
日 程:令和7年9月10日(水)13:00~16:30 **対面型研修** 申込 QR  
場 所:立上公民会館 お茶の水 RoomA(千代田区)  
(コーディネーター)  
三橋 昌平氏(三橋総合法律事務所)、鈴木 慶太氏(前職)、  
加藤 道雄氏(前職) <https://forms.gle/9e9TqEjppmRame7>

**Ⅲ.困難事例検討会(23区・多摩地区)** 申込/切:10月21日(火)15:00  
日 程:令和7年10月22日(水)13:00~16:30 **対面型研修** 申込 QR  
場 所:アットビジネスセンター 渋谷駅前駅前 301 会議室(東京都)  
(コーディネーター)  
伊藤 克之氏(前職)、鈴木 慶太氏(前職)、加藤 道雄氏(前職) <https://forms.gle/jdciYDdAI7Mq8h0C4>

**Ⅲ.困難事例検討会(多摩地区)** 申込/切:11月25日(火)15:00  
日 程:令和7年11月26日(水)13:00~16:30 **対面型研修** 申込 QR  
場 所: <https://forms.gle/ConferenceRoom> 3階(コナラ)  
(コーディネーター)  
伊藤 克之氏(前職)、鈴木 慶太氏(前職)、加藤 道雄氏(前職) <https://forms.gle/NetDzj12eaeo3g9V7>

研修Ⅰ・Ⅱ N=48名(ハイブリッド、13区6市1町)※同日開催



アンケート結果※一部抜粋

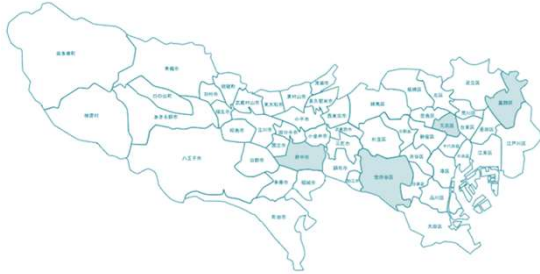
- ・本日、初めて司法の立場からのお話を伺いました。就労支援・定着する上で、合理的配慮をえて、スタートラインに立つためには「本人が意思の表明をする必要がある」「雇用側に過重な負担がない」「調整し続ける姿勢が必要である」という点を本人・家族・就業先に伝えていきたいです。
- また、セルフアドボカシーができるようサポートしていきたいです。
- ・合理的配慮について、司法の観点から考えたことはなく、裁判にまで発展するケースがあることすら考えたことがありませんでした。本人と企業の調整を図ることがいかにキーになるかを考える機会になりました。
- ・法律でも定められている事を知りましたので、合理的配慮を意識しながら支援していきたいと思えます。

お問合せ 東京都発達障害者支援センター おとなTOSCA  
TEL: 03-5579-8577 メール: [tosca@tonpa.or.jp](mailto:tosca@tonpa.or.jp)

### ③-1-1.成人期発達障害者支援力向上研修※支援者の勤務地

3 区部開催では改めてホームページでの告知が不足していた

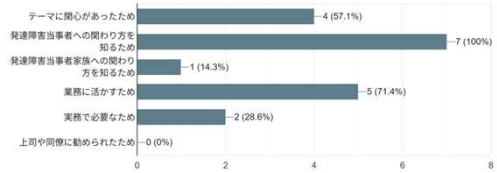
研修Ⅲ【区部開催】N=7名(集合研修、3区、1市)



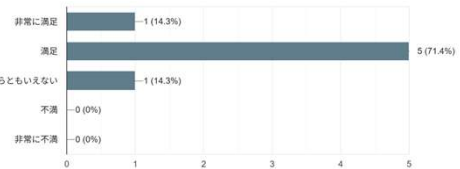
アンケート結果※一部抜粋

- ・自分の専門外の方からの知見がとても役に立ちました。福祉の現場でどのように対応されているのか話が聞けるだけでも自分の知識の幅が広がります。
- ・ケースを通じて他の相談員への視点、自分と同じ視点と自分には思いつかない又は違った意見や視点が開けて視野が広がった。
- ・加藤先生の話は大変学びになりました。広い視野をもって対応していきたい。
- ・発達障害(事例をもとに)の意見交換が出来た事や・知り得ぬ事や今後についての学びができました。

Q3. 研修にお申込みいただいた理由を教えてください(複数選択可)。  
7件の回答



Q4. 困難事例検討会の満足度を教えてください  
7件の回答



### ③-1-2.成人期発達障害者支援力向上研修※支援者の勤務地

4 区部開催での反省を活かし、ホームページだけでなく、地マネの方でも周知を実施

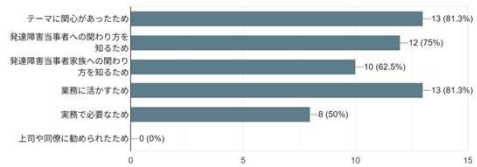
研修Ⅲ【区市部開催】N=16名(集合研修、11区、2市)



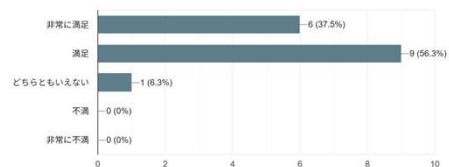
アンケート結果※一部抜粋

- ・他の相談員や他の職種の方の価値、意見を聞くことが出来、同じ部分と、新しい視点をきけた。Dr、弁護士の先生方のご意見も大変参考になった。
- ・色々な意見が聞いて良かった。違った視点を取り入れることができた。
- ・軽度の知的障害者への支援の困難さを考えることが出来ました。
- ・アセスメントの際に役立たせたいと思いました。
- ・アプローチの仕方を変えてみようと思います。
- ・他機関の方の意見を聞いて、支援の視野が広がりました。
- ・困難事例検討会で事例を知ることができ、対応も多面的で勉強になります。

Q3. 研修にお申込みいただいた理由を教えてください(複数選択可)。  
16件の回答



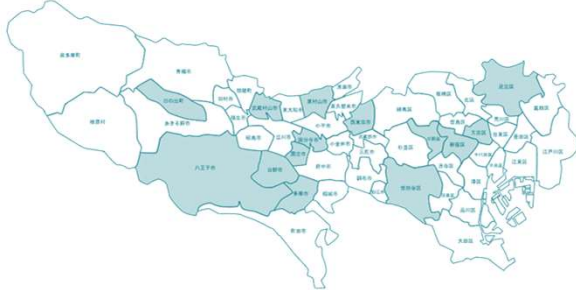
Q4. 困難事例検討会の満足度を教えてください  
16件の回答



### ③-1-3.成人期発達障害者支援力向上研修※支援者の勤務地

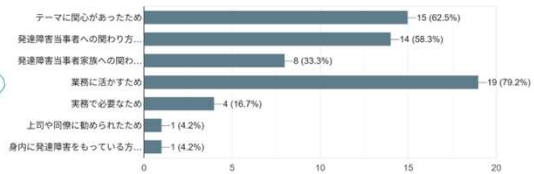
5 区部開催での反省を活かし、ホームページだけでなく、地マネの方でも周知を実施

研修Ⅲ【市部開催】N=23名(集合研修、5区、9市)



Q1. 研修にお申込みいただいた理由を教えてください(複数選択可)。

24件の回答

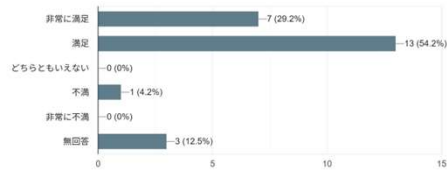


アンケート結果※一部抜粋

- ・本人が困っておらず家族と本人の思いと希望にずれが生じているケースで、情報収集のポイントやアセスメントの視点、家族への対応の仕方が参考になった。
- ・福祉や医療の視点から考えることが多かったものの、必要に応じて司法(警察への通報も含む)視点から考えていくことが大切だということに気が付いた。
- ・なんでもかんでも発達のせいと決めつけないことが大切と感じた。
- ・改めて支援の基本に立つことができ、満足できた。アセスメントの重要性を気付いた。
- ・障害に関係なく対応すべきという事がわかった。

Q2. 困難事例検討会の満足度を教えてください

24件の回答



### ③-2.総括

6

・研修Ⅰ・Ⅱ(講演会・パネルディスカッション)を昨年度に続きハイブリッド形式にしたことにより、13区6市1町から48名(対面16名、オンライン32名)が参加であり、ここでもオンライン参加のニーズが高いこと、また参加がしやすい形態だったことがうかがえる。一方で、参加する地域の偏りは否めない。

・地域から提供される成人期の困難事例は、「医療」「福祉」「司法」と単純に切り分けて検討することの難しい複合的な課題を有するケースが多い。分野・領域単位ではなく、複合的な視点を意識しての開催としていることで、概ねそれぞれの専門外の視点を取り入れることが役に立ったという回答を得た。

・研修Ⅲ(困難事例検討会)は、参加者の利便性も考え、区部・多摩の2か所から区部、区部+多摩地区、多摩地区の3か所開催へと変更した。その結果、区部会場では定員割れが生じた。全体の申込数自体は昨年度と大きく変わらないものの、原因としては開催場所の分割、ホームページでの告知不足、(事例検討会ゆえ事例提供者や匿名化されているとはいえ事例対象者の情報保護といった安心・安全の担保のため)対面開催であることが考えられる。

今後は地域支援マネジャーの活動を通して参加自治体の拡大を図るとともに、開催方法(回数・場所)の在り方を検討していく。

・全体を通して、発達特性の有無如何に関わらず、その「対象者」を知ろうとする視点(「問題解決しない事例検討会」の視点)が有用であるように考えられたことから、次年度以降にその点も考慮して準備をしていく。